

文化・交流—新しい地域創造

ロゼ

文化情報誌 ロゼ
Art information of Fuji city
Culture Magazine ROSE

Vol.12 SUMMER 1995
夏号



世界の頂点、究極のマーラーが富士を震撼させる。 フランクフルト放送交響楽団 エリアフ・インバル指揮

1995年11月1日(水) 開場18:30・開演19:00 大ホール
プログラム ● マーラー/交響曲第5番 嬰ハ短調 ● シューベルト/交響曲第8番 ロ短調「未完成」D.759

フランクフルト放送交響楽団

(Radio-Sinfonie-Orchester Frankfurt, 以下RSOと略す)
RSOは1929年の創立、D. ディクソンとE. インバル、29年間の功績により世界一流との国際的評価を得るオーケストラとなった。1990年より常任指揮を務めるD. キタエンコは来シーズンが常任最後の年となる。キタエンコはインバル時代を引き継ぎ印象深い新次元を切り開いた。来シーズンのRSOはCh. エッセンバツハ指揮ベルディ「レクイエム」で開幕する。キタエンコはR. シュトラウス、D. ヒンデミットとロシア作曲家の作品をプログラムに出している。今年、10月22日から11月11日はインバルと日本公演、来年1月13日はケルン公演を予定している。「徹視的透明感の表出」「ニュアンスに富んだ気品を演出」「たくみなニュアンスで劇的効果」などの最近の演奏会新聞評に見られるように、繊細な音の重ね合わせによる陰影豊富な表現を特徴としている。



ドイツ・ケルン市在住の
内藤開喜氏から、
インバル氏と
フランクフルト放送交響
楽団の
最新情報が届きました。



内藤開喜
内藤氏については、
P8のインタビューを
ご参照ください。

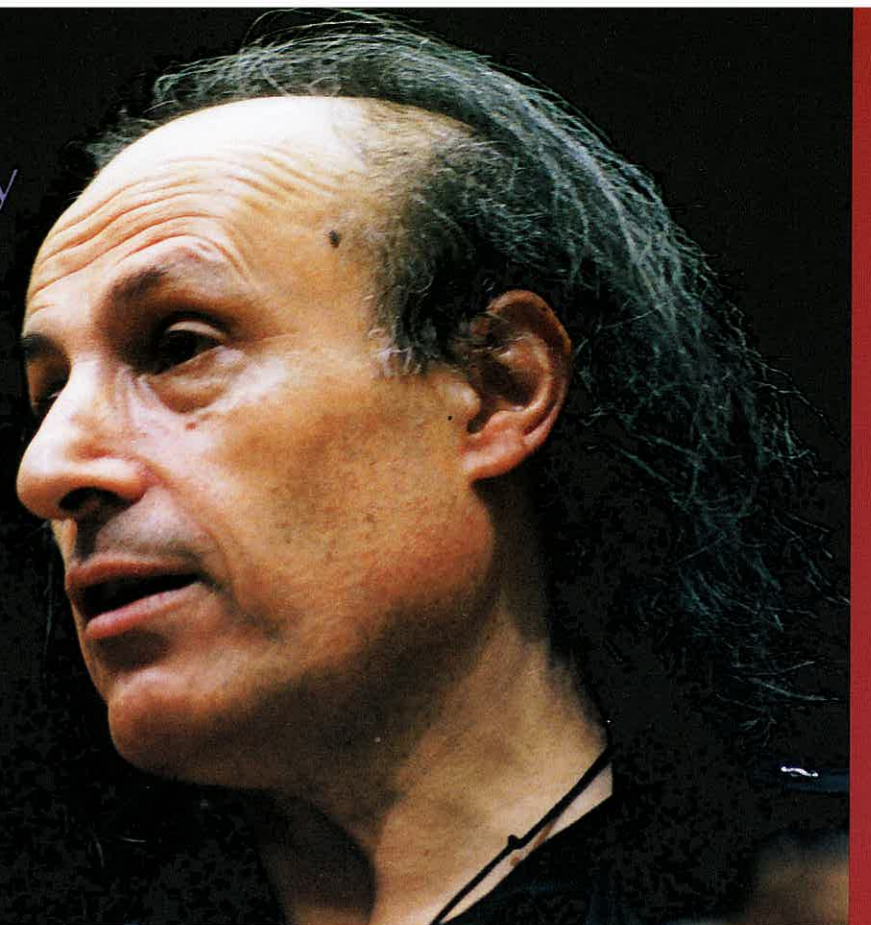
エリアフ・インバル(指揮者、パリ在住)

1936年エルサレム生まれ。当地にてバイオリン、作曲を学ぶ。L. バーンシュタインの勧めでF. フェラーラに指揮を師事、カンテルリ指揮者コンクールで優勝する。その後、ベネチア歌劇場オーケストラで3年、RSOで16年間の常任指揮者を務める。その間のマーラー全交響曲録音などの活躍は有名である。これまでチューリヒでベルディ、シュレツカー、ヘンツェのオペラを定期公演してきたが、来シーズンはベルリニのオペラ「ノルマ」を予定。また、ウィーン交響楽団とショスタコヴィッチの全交響曲録音、そのほかスリスロマンとR. シュトラウスの交響詩、RSOとウィーン楽派の作品、シベリウス、シューベルト作品の録音も控えている。ツアーとして日本、ドイツ、スイス各地での演奏も多く予定されている。同氏は「経典とともに作品の解釈は変わりうる。こまかい所はホールの音響によっても毎日多少違う。世界の一流オーケストラは常に最高の音響をもったホールで練習している」と述べ、また、「マーラーの『交響曲第5番』は1904年10月、ケルンで作曲家自身の指揮で初演されたが、マーラーは以後、指揮をすることに改訂、透明感を求めているのかわかる」と語っている。

Rosé Theatre The 2nd. Anniversary Special Interview



エリアフ・インバル(指揮者)



富士に響くマーラーの世界……。

「クラシック音楽」という言葉のもつイメージはヨーロッパと強く結びついて私たちの脳裏に浮かび上がります。海外へ気軽に出かけられる昨今、音楽ホールの増設や、CD値下げによる増販などで、ジャンルを問わず「クラシック音楽」が身近な存在になってきました。

近年、日本においても、ブルックナーが好まれたり、マーラーブームが訪れたり、大編成のオーケストラが奏でる壮大な交響曲を聴き、深淵なるロマンの世界に身を委ねて過ごす時代が到来しています。

ロゼシアターでは、来る十一月一日のオープン二周年にマーラー交響曲全集のレコーディングで全世界に大ヒットを飛ばした名コンビ、エリアフ・インバル(指揮)とフランクフルト放送交響楽団を招くことになりました。別名コンサートホールと呼ばれ、音響の面で高い評価を頂いているロゼの大ホールで、本格的オーケストラの公演が実現します。ヨーロッパの名門フランクフルト放送交響楽団、指揮・エリアフ・インバル、プログラムはマーラーの「交響曲五番」とシューベルトの「未完成」、これは、今望み得る最高のコンサートといえましょう。本誌では、日本ツアーを前に、インバル氏にインタビューを試み、熱い心の内を聞き出すことに成功しました。

富士市には初めての来演ですが、当地区でも多くのファンはインバルさんのことを知っていたがっています。インバルさんが日本に抱いているイメージはどんなものですか？

期待してくれてありがとうございます。日本は私にとって発見と経験に満ちあふれた魅惑的な国と感じています。私にとって一番重要なのは、日本がまだ独自の文化を密に保っていることです。むしろ美しい表現とお思いでしょうが、つまり、人々が社会の中で互いに一定の礼節を重んじ、階級的な地位を尊重するグループ文化をもった国民だということです。

その文化には二つの潮流があります。一つは独自の日本文化、例えば歌舞伎、能、相撲、邦楽、絵画などで、もう一つは国際的な西欧の文化です。このオーケストラは私のもとで五十枚もレコードを録音し、数々の重要なツアーを行いました。そして、オーケストラの団員のほとんどは私が自分で選びました。

指揮者主導の緻密なアンサンブルと言われる由縁はそこにあるのです。そのフランクフルト放送交響楽団の特徴はどんなところにありますか？

ええ、お陰様で今では世界の聴衆から支持されるオーケストラになっています。現在、フランクフルト放送交響楽団はすべての部門で巨匠的な演奏者たちをかかえており、満ちあふれた豊かな交響楽の響きで知られています。

そうですね。それとまた響きのよいロゼシアターの大ホールでのコンサートの期待が高まります。インバルさんが得意としている作曲家マーラーについてひとこと。

話せば長くなりますが、ひとことと言うと、マーラーは今日では私たちの世界の問題、つまり不安、希望、理想の探求と解決、内なる闘い、そして美しき良きものへの信仰などを最もよく表現している作曲家となります。

今回、ロゼシアターで演奏されるシューベルトの交響曲第八番「未完成」とマーラーの交響曲第五番について、鑑賞のポイントなどありましたら、おっしゃってください。

この二つの交響曲は一体となっています。二曲とも始めから終わりまで魅力に満ちあふれた曲といつて

です。同じことは食文化についても言えます。この並行する二つの文化的志向が私にとってはいつも未知との出会いであり、それは常に興奮に満ちたものになっています。

また、産業と経済においては千年に及ぶ日本人のグループ文化が重要な位置を占めているといつていいでしょう。これにより皆さんは力を得、成功を勝ちとっていらっしゃるのではないのでしょうか。

ありがとうございます。ところで、インバルさんと今回一緒に来日されるフランクフルト放送交響楽団とのコンビは世界的に有名ですが、そうですね。彼らとは、ずいぶん深いつながりがあります。フランクフルト放送交響楽団との十六年に及ぶ共同の仕事は大きな実を結びま



いでしょう。シューベルトは天国で夢見ています。マーラーは地上で、地獄で、愛において、天国で、そして創造において私たちに導いてくれます。そんなことを思い浮かべながら聴いてみるとよいでしょう。

十一月一日、富士山のふもとにある私もロゼシアターが、オープン二周年を迎えます。富士市に集まるクラシックファンにメッセージをお願いしますか？

私は日本の富士山を愛し崇めており、何度も参りました。そのふもとにある富士市を訪れることを大変楽しみにしています。会場となるロゼシアターが、開館二周年をお迎えのこと、富士市の皆様には心からお祝いを申し上げます。将来におかれましては多くの喜びと成功をお祈りします。それでは、また十一月にお会いしましょう。

インバルさん、お忙しいなか、ありがとうございます。ロゼシアターでのコンサート、とても楽しみにしています。



岡山シンフォニー・ホール提供

コンサート鑑賞メモ

旧西ドイツ中部に位置するフランクフルト市は、ヘッセン州の首都。ライン川の支流マイン川を中心に発展した都市で、一般には文豪ゲーテ生誕の地として知られている。

フランクフルト放送交響楽団は一九二九年に設立され、ドイツのオーケストラの中でも古い歴史を誇っている。途中第二次世界大戦により一時低迷したが戦後すぐ立ち直り、四十五年に活動開始、以後フルトヴェンゲラー、ストコフスキー、ベームらを迎え、数々の歴史的演奏会を開催、オーケストラとしての実力を著実に身につけていった。しかし何といつても世界の注目を浴びるようになったのは、一九七四年エリアフ・インバルを首席指揮者に迎えてからである。当時インバルは三十六歳、直ちにオーケストラの近代化をはかることに、レバトリにブルックナー、マーラーをもつてきた。

八十年代に入つてこのコンビはブルックナー、マーラーの交響曲全集をたて続けにレコーディング、その完成度の高さはオーケストラ界の台風の目となった。この演奏はたちまち世界で大ヒット、ヨーロッパでドイツ・レコード賞、批評家賞、フランス・ディ・アゾン・ドール賞、ACCデイスク大賞、日本レコードアカデミー賞、文化庁芸術作品賞などを相次いで受賞した。現在マーラー演奏については、世界第一級の名コンビとして、その名をほいほいまにしている。

グスタフ・マーラー
(ボヘミア生まれ 一八六〇—一九一九年)
六歳からピアノを習い始め、一八七五年にウィーン音楽院に入学し、ピアノ、作曲、指揮を学ぶ。卒業後は各地の歌劇場で指揮をとり、指揮者として名をあげる。一八九五年頃から作曲家としても注目されたが、活動の場は指揮の方が多く、一八九八年にはウィーンフィルの指揮も行うようになった。マーラーは歌劇の指揮者として名声をあげながら歌劇の作曲はあまり行わず、本質的には好きな交響曲と歌曲の創作にその主体をおいていた。彼の交響曲は、十曲あるといわれているが、半分は声楽を併用している。しかし今回ロゼで演奏される第五番は、オーケストラだけの曲である。演奏時間約七十分にあたる長大なこの曲は、五つの楽章で構成されており、一九〇一年に作曲された。当時のマーラーの生活環境がそのまま曲に反映され、憂鬱さ、悲痛さ、諦観といったもののほか、明るい生活への憧れ、宗教観などが盛り込まれている。

演奏では、鮮明で巧妙な管弦楽法が駆使され、現代に生きる私たちの感覚にもマッチすることから、多くの人たちの共感をよんでいる。

日本と英国の伝統文化、ロゼで開花 動と静の競艶、舞台と展示室は華麗な美に満ちあふれる



ヨーロッパ・アメリカ展帰国記念
能装束の世界展
現代によみがえる染と織
一九九五年五月六日(土)～二十一日(日)
展示室



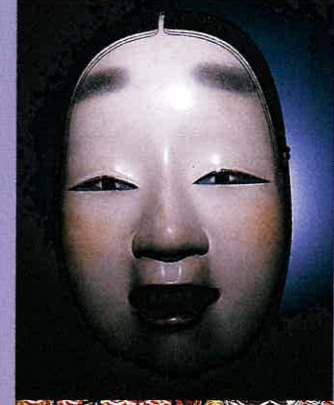
初日から大勢のお客様が来場



列品解説を行う山口憲氏



能 狂言 出演
杜若(かきつばた)
観世暁夫
嶋牛(かきゅう)
山本東次郎
土蜘蛛(つちぐも)
浅井文義



土蜘蛛(つちぐも)

能装束の世界展会場



伝統文化フォーラム
各委員も来場

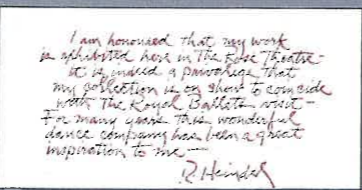
財団では、春爛漫の五月から初夏の六月にかけて、能とバレエの展示と公演を同時開催しました。全国でもあまり例のないこの企画は大勢の皆さんの評判をよんで、会場は毎日大にぎわいの盛況でした。

前半に行なった「能装束展」は、桃山・江戸時代の絢爛豪華な能装束を復原展示。能装束研究家・山口憲氏が直接解説を行ない、お客様に知識を吸収していただき、さらに観世流による「能と狂言の夕べ」を上演、日本の伝統



美を堪能していただきました。また、後半の「バレエ絵画展」は、ミュージカル「キャッツ」のポスター作家として世界的に著名なロバート・ハインデル氏直筆の油彩画、ドローイング、版画など六十点を展示。六月六日大ホールで「ジゼル」を公演した英国ロイヤルバレエ団のダンサーたちがモデルとあって、これまた大好評。オープン初日には同バレエ団のプリンシパルも会場に姿を見せ、展示に華を添えました。

英国ロイヤルバレエ団ロゼシアター公演記念
**ロバート・ハインデル
バレエ・アート展**
1995年6月6日(土)～13日(日)
展示室



この度、私の作品が、このロゼシアターで展示される事をたいへん光栄に思います。また、ロイヤルバレエ団の公演と同時に開催される事は、私にとって二重の喜びです。この素晴らしいバレエ団はずっと以前から私に大きなインスピレーションを与えてくれました。
ロバート・ハインデル



バレエ・アート展会場

英国ロイヤルバレエ団
ジゼル(全幕)
1995年6月6日(土)
大ホール

キャスト
ジゼル/ヴィヴィアナ・デュランテ
アルブレヒト/ブルース・サンソム
ヒラリオン/アシュレイ・ページ 他
演奏
東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団



ダーシー・バッセル嬢(油彩画)107×91



ダーシー・バッセル嬢(プリンシパル)
突然の来場
自分の絵の前で



その瞬間、時代は息をのんだ...
毎日新聞が選んだ
戦後50年報道写真展
1995年8月9日(水)～31日(木)
AM9:00～PM7:00 展示室



戦争が終わり、今年でちょうど50年がたちます。この半世紀に日本は、戦後の貧しい時代から現在の豊かな時代へと変貌を遂げました。ロゼシアターでは戦後50年をむかえ「報道写真展」を企画、皆様にご覧いただくことになりました。ご家族ともどもご来場をお待ちしております。



戦後50年特別企画 劇団文化座・朗読劇
あの人は帰ってこなかった
1995年8月29日(火) 18:30開場・19:00開演
中ホール
入場料(全席指定)S席3,500円・A席3,000円(学生1,500円)

構成/堀江 安夫
演出/佐々木雄二
出演/鈴木 光枝
小金井宣夫
成田 明哉
蓮香 洋一

8月29日(火)、中ホールでやはり戦後50年特別企画として「あの人は帰ってこなかった」を上演します。岩手県農村文化懇話会が編集し、昭和36年に刊行された「戦没農民兵士の手紙」と、戦争未亡人の歩んだ道を記録した昭和39年刊行の「あの人は帰ってこなかった」(菊池敬一・大牟羅良編)をもとに構成される朗読劇。夫の出征、留守を預かっていたの農作業。そして、戦死の公報。一家の支柱を失い過酷な生活を送らざるを得なかった戦争未亡人たち...。戦後50年を迎え、これら真実の声が歴史の闇に照らされることのないよう、劇団文化座の鈴木光枝さんが心をこめて現代に語り継いでいます。
●P7.鈴木光枝さんのインタビューをご覧ください。

この秋、開館2周年を迎えるロゼシアター。すでに84万人の方が入館されています(平成7年6月末現在)。館内施設も財団自主事業以外に多くの方が利用しています。そこで今回は、平成6年4月から平成7年3月までの施設利用の状況をわかりやすくまとめてみました。ロゼの顔ともいえる大・中・小ホール、展示室では、コンサートのみならずアートの世界からアカデミックなものまで、まさに館内花盛り、ここには大勢のみなさんから愛し愛されるロゼシアターの姿が鮮やかに浮かび上がってきます。

2nd ANNIVERSARY
 ロゼシアターへの熱きオマージュ
 貸館は花盛り
 館内は今日もにぎやか!
 ロゼシアター利用状況報告

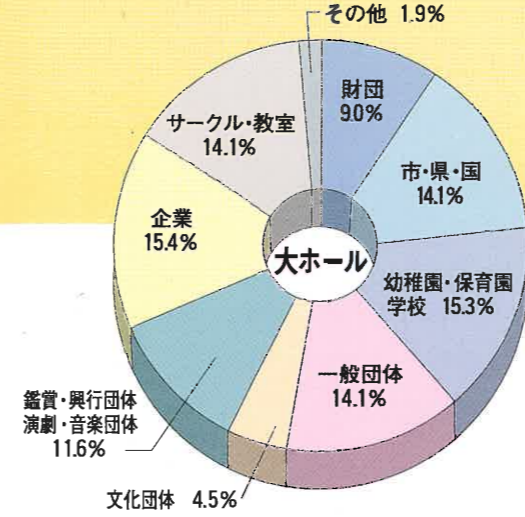


ドイツ・ミュンヘンデュオ
 CDレコーディング風景
 (中ホール)

利用者50万人
 突破記念
 ガレリアコンサート
 (94.10.23)



[主催者別ホール使用状況]

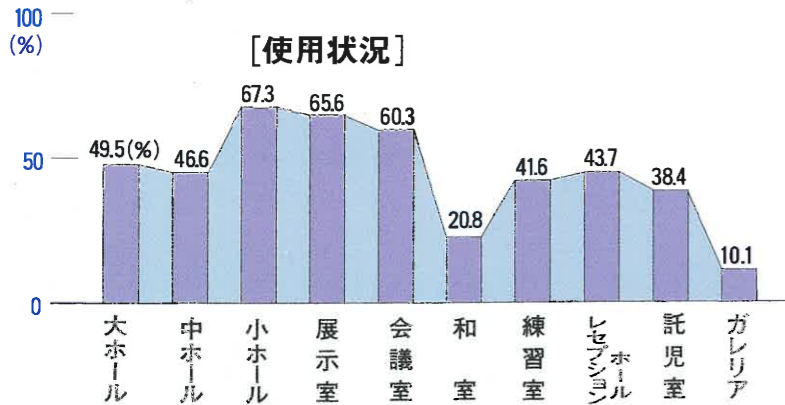
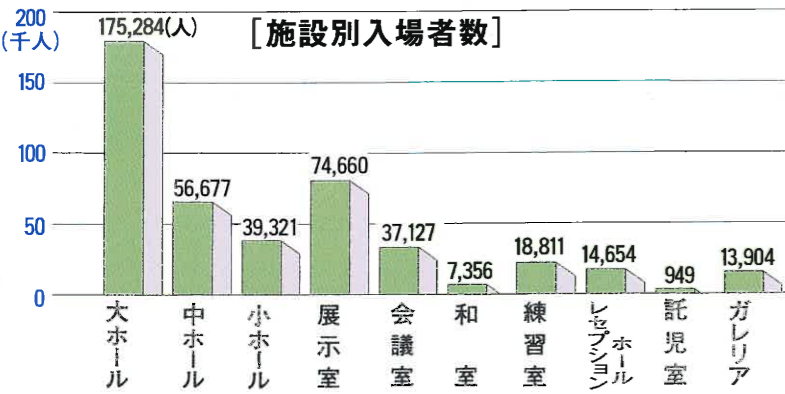


Y社による
 QCサークル大会
 (小ホール)



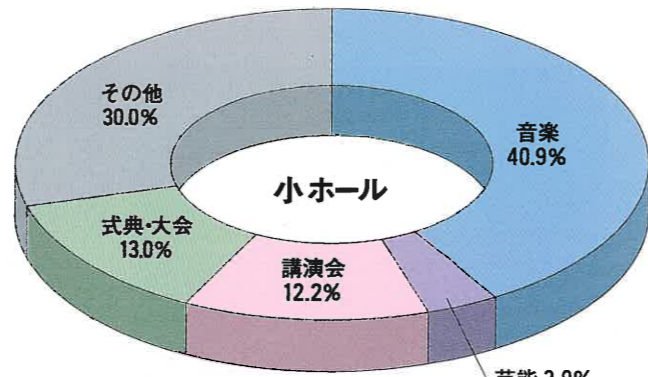
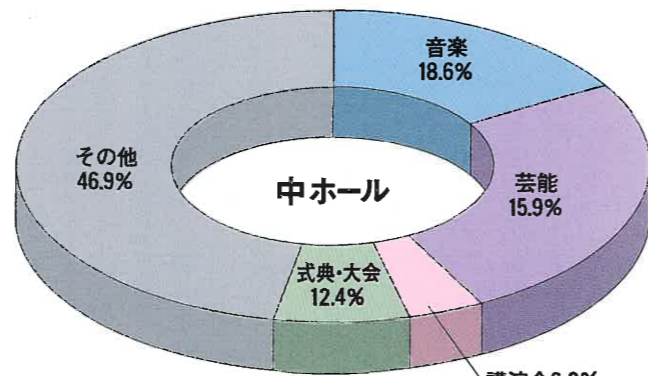
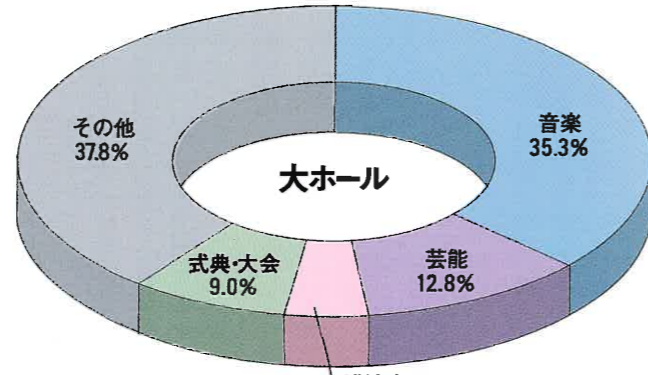
ロゼシアターの施設は、ホール以外でも人気があります。
 ここでは、ホールと比べてその他の施設の使用状況を調べてみました。

このグラフからは大ホールの入場者が一番多いようです。客席数からみると当然といえます。しかし使用率からみると小ホール、展示室、会議室が最も多く使われています。内容的にみてもこれらの施設は、比較的小さな団体、グループが入れ代わり、立ち代わり利用しているといった状況で、各種各層のみなさんがいろいろな使い方をしながら楽しんでいることがわかります。特殊な例として、託児室も貸館として活躍しています。

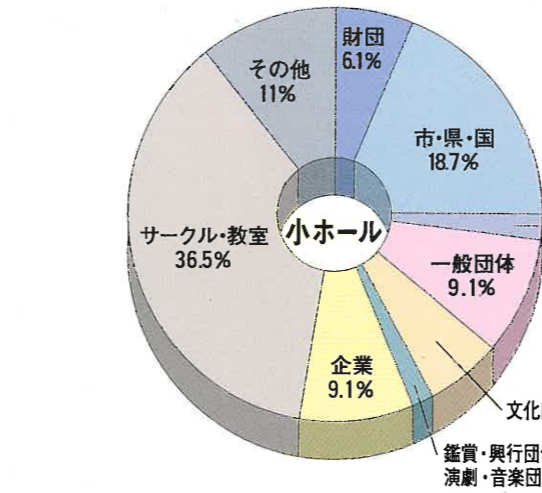
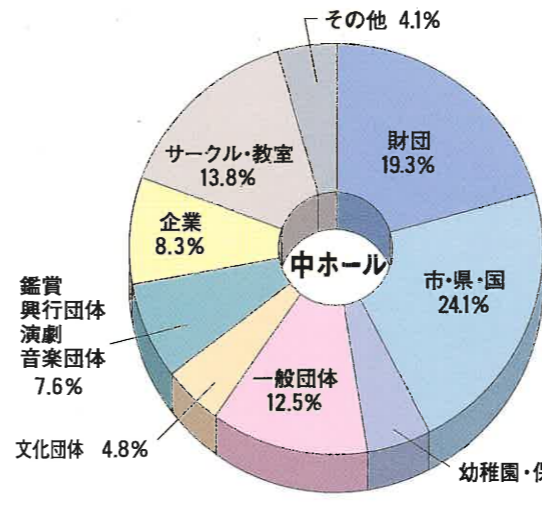


[ジャンル別ホール使用状況]

(「その他」の中にはリハーサル・映画・研修会など含む)



大・中・小の各ホールが、
 どんな人たちに、
 どのように使われているか、
 円グラフに表してみました。



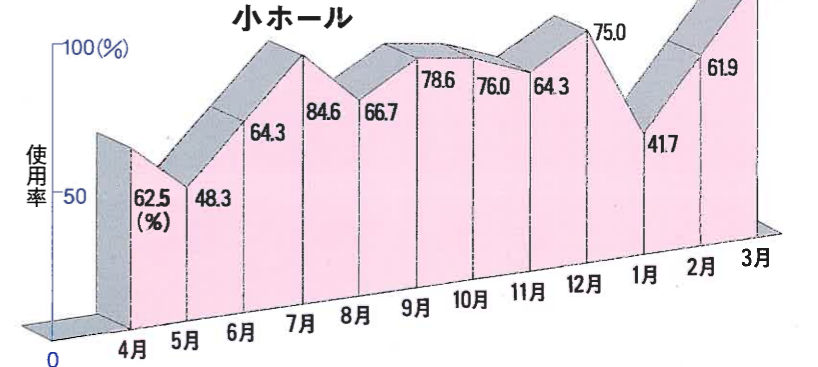
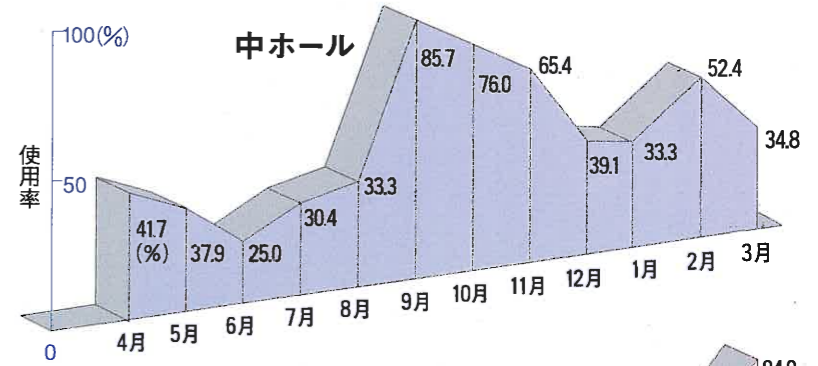
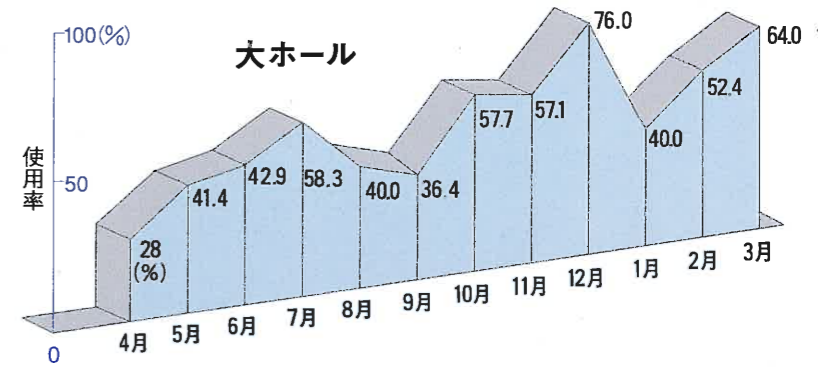
主目的を大ホールは音楽、中ホールは演劇・ミュージカル、小ホールは市民レベルの芸術活動とそれぞれ設定して作られました。各ホールとも、ほぼ計画通りの使われ方をしています。全体としては、音楽会としての使用が最も高く、次に芸能として、詩吟・民謡・踊り・演芸など地元の方々に発表の場として多く使われています。主催者もグラフからわかるようにホールの客席数に応じて、団体・グループの規模が異なり、大ホールは企業・学校などから、小ホールは趣味のサークルまで、広範囲にわたっています。

各ホールにおける使用状況を月別にして表してみました。

各ホールによって、月の使用頻度に差があることがわかります。全体的に使用率が高いのはやはり秋で、「芸術・文化の秋」ということで、各ホールとも多種多様な発表会が行われています。

これに対し、レジャー、行楽シーズンである春から夏は、今ひとつ使用が少ないようです。年度の替わり目、年末年始、ゴールデンウィークなど日常大きな行事がある月は、やはり使用率が下がる傾向にあります。小ホールだけは他のホールと少し違うようです。市民(主に子どもたち)の発表会に適した大きさ、雰囲気のある作りなどから当初の目的通りの使われ方で、年間を通じて高い使用率を示しています。そのほか、中ホールが秋口に高い使用率を示しているのが目立っています。

[月別使用状況推移]



ロゼシアター施設ご利用について



- 使用の申し込み
 使用承認申請書へ(受付にあります)
 記入のうえ捺印して提出
- 受付時間
 午前9時から午後7時まで
 (毎月第1・第3月曜日は休館日)
- 受付場所
 ロゼシアター1階の財団事務所
 問い合わせ先
 財団 富士市文化振興財団 総務課施設係
 ☎0545-60-2511 FAX 0545-60-2505

農民の妻たちの悲惨な戦争体験を 私の肉体で伝えたいと思います。

夫の戦死……。子供や田畑を抱え、悲惨な生を強いられた農村婦人たち。そして農民兵が戦地から家族に宛てた魂の叫び。

岩手県横川目村に住む戦争未亡人からの聞き書き集と戦没農民兵士の手紙を交錯させた朗読劇『あの人は帰ってこなかった』が、八月二十九日にロゼシアターで公演されます。この舞台で妻たちの無念を代弁する鈴木光枝さんを東京・田端の劇団文化座に訪ね、お話を伺いました。

戦争の暗い影を 背負った青春でした。

鈴木さんが演劇に身を投じられてから随分ご苦労されたとうかがっています。

初舞台は十三歳の昭和七年、旧満州国(現在の中国東北部)ができた年です。それからはもう戦争一色。私たちは当時の国家情報局が牛耳る国策劇を嫌って、昭和十七年に『劇団文化座』を旗揚げします。芸術性の高い大衆劇を、作品の中に社会の風が吹くりアリテイを。役者の一途な心意気が時代に造反したんですね。でも十六年に太平洋戦争が始まって。昭和二十年には劇団疎開を命じられ、海を越えて新京に渡りました。そして敗戦。見捨てられた辺境の開拓民や兵士と一緒に、私たちが一年間抑留され。ソ連兵に乱暴される

のが怖いから頭を坊主にしましてね。引き揚げ船に乗る時、大勢の同胞を残したまま自分たちだけ。心の中で手を合わせて、ご免なさいと。青春の節目節目に、怒りと涙がありました。

東京の物語なのに東北弁に言い換えた台詞のテロップをわざわざ送って来られたりしました。

今回の「あの人は帰ってこなかった」には凄く愛着を感じますね。私の死んだ夫の実家が秋田で、岩手県横川目村とはすぐ近くなんです。不思議な縁だなあ、と思います。

この舞名が 私のライフワークです。

この「あの人は帰ってこなかった」に対する鈴木さんの思い入れをきかせてください。

昔は映画には全然出ませんでした。地方巡業で稼いで東京公演のお金を捻出するのに必死だったんです。昭和二十〜三十年代は、新劇俳優がちよっと映画出演するとびっくりするくらいギヤラをくれたの。ボンボン引き受けていたら、外車に乗れて別荘も建ったかしら。でも、みんな仕事で来る地方公演で生きる道を選んだんです。当時から地方だからって手抜きは絶対しません。仕事の質を落とすことは、役者の恥ですもの。

テレビへの出演は民放ができてからです。

私って田舎のお婆さん役が多い。若い頃から老け役専門みたいだったし。それに評価された芝居が東北弁だと、生まれ故郷まで東北じゃなかった。本当はチャキチャキの江戸っ子、神田の生まれ、寿司食いねえ。なんですけど。演出家の方から、

ひどい目に遭った満州引揚者の一人として、戦争に対する思いは強いですが。忘れられませんか。だからこそ、横川目村の戦争未亡人、私と同じ世代の女性たちが肉声で語った哀しい体験が肌に突き刺さります。私は、彼女たちの心を丁寧になぞるように演じたい。文章を書くよりも自分の肉体で、いまを平和に暮らす方々に戦争の悲惨と愚かしさを伝えられたら……。私も七十七歳です。女優としての時間は限られているわよね。でも喋れさえすれば、ボケさえしなければ「あの人は帰ってこなかった」の語り部として舞台上に生きてゆける。戦後五十年だからという理由ではなく、戦争体験の風化を少しでも遅らせるために、声なき声の代弁者になりたいんです。

本物雑感

私のドイツ生活が十四年を越えた。ドイツで暮らして興味深いことは、日本を他の国と比較して見られること、多くの他国人の人も接する機会が多い(ドイツはナチ時代の贖罪感から外国人亡命者を多く受け入れている)ことから種々の異文化に同時に触れられることである。食文化も一例である。ドイツのパン、ワイン、ソーセージと同じくフランス・スイス・イタリアの異なるワインやチーズ、オリエンタル・ギリシャの羊・ヤギのチーズやオリブ、



各国の薬味や漬物などを味わえる。美味なその国の特産に出会ったとき素晴らしい芸術に接したのと同じ感動がある。えてしてこれらは納豆やキムチ、チーズのように恰も敵の侵入を防ぐがごとく不快な臭いがする。しかし一度口にするとも真価を發揮する。その民族とともに歩んできた長い歴史の重みが口の中に広がり、ちよと真直に育った木の太い幹が連想できる。これぞ合点のいく

ロゼシアターはオープン満二周年目を迎え、より一層充実した内容で自主事業を行いましたと願っております。国内はもとより、海外からもクラシック音楽、バレエ、ポピュラーなど各分野で超一流といわれるアーティストを招き、多くの皆様にプロのエンターテイメントを味わって頂くよう考えております。

本誌「ロゼ」も国際的アーチストのインタビュー記事や載せるなど斬新な誌面作りを心がけておりますが、この度富士市出身でドイツに在住の内藤間喜氏とご縁が出来て、

今号からドイツを中心とした文化情報を本欄に掲載していくことになりました。

氏はドイツ・ケルン市においてマンドリンを製作する傍ら、演奏活動も行っており、文化面に造詣が深く、今後、海外のさまざまな動向を新しい切り口でお伝えできるものと思っております。ご期待ください。

今日の情報や合成品、偽物の氾濫、同じ価値観を植えつける速成教育等が本物の認知をますます困難にしている。チャペリー・チャップリンが自分の「そっくりコンテスト」に秘かに参加し三位になったという。本物は限りなく、さらなる本物を目指して発展し続ける。本物を求める者同士は分野を超越した相互理解が容易であり、互いの感性を研ぎ澄ましあえる。そんな環境で「本物のマンドリン」を製作したドイツへ来た。

母が「おいしい飯と漬物があれば他には何もいらぬ」と言っていたこと、「牛や豚は食べられるためだけに生まれてくるのね」と泣いていたこと、父が「あの店のヤキトリのタレはモツだけに合う」とか言っていたのが忘れられない。良い環境にいたのだと客観的に思えるようになった。

ドイツ、ケルン近辺を中心にした文化面のインフォメーションを「ROSE」にお伝えできると思う。

同じ価値観を植えつける速成教育等が本物の認知をますます困難にしている。チャペリー・チャップリンが自分の「そっくりコンテスト」に秘かに参加し三位になったという。本物は限りなく、さらなる本物を目指して発展し続ける。本物を求める者同士は分野を超越した相互理解が容易であり、互いの感性を研ぎ澄ましあえる。そんな環境で「本物のマンドリン」を製作したドイツへ来た。

母が「おいしい飯と漬物があれば他には何もいらぬ」と言っていたこと、「牛や豚は食べられるためだけに生まれてくるのね」と泣いていたこと、父が「あの店のヤキトリのタレはモツだけに合う」とか言っていたのが忘れられない。良い環境にいたのだと客観的に思えるようになった。

ドイツ、ケルン近辺を中心にした文化面のインフォメーションを「ROSE」にお伝えできると思う。

マンドリン製作・演奏家

内藤間喜

Yasuyoshi Naitoh • PROFILE

ないとう やすよし/横浜国立大学工学研究科安全工学科及び同大学院卒業。
幼少よりマンドリン演奏を比留間絹子、杉原里子、久保田孝に師事。
マンドリン製作のアプローチを島田茂、横内の花子、富樫敬信に学ぶ。
1981年渡独、ギター製作工房佐藤一夫助手。
1983年よりケルン大学にて音楽学専攻、J・フリック教授のもとで楽器音響研究、1989年マンドリン製作家試験合格。
同業者組合(ギルド)加盟、連盟員登録。マンドリン製作工房開設。
ジュゼッパ・アネッダ、ウーゴ・オルランディのマスターコース参加、合奏団客演メンバー、ソリストとして演奏活動。
1993年ベルリン現代音楽祭参加シャウシュピールハウスにて演奏等。
元ドイツ・ツッパ・オーケストラ(DZO)メンバー、DZOで多くの放送及びCD録音、コンサート。
1989年ケルンマンドリン合奏団「カメラータ・コルドフォニア・コロニエンシス」結成、主宰、1995年春日本へ演奏旅行。ケルン在住。



劇団文化座・女優

鈴木光枝

Mitsue Suzuki • PROFILE

すずき みつえ/1918年東京神田生まれ。
市立第一高女(現・深川高校)中退。1932年から井上正夫に師事、同年初舞台を踏む。
1942年「劇団文化座」を結成し、現在に至る。
夫(故)佐佐木隆は演出家、娘は女優・佐々木愛。
芸歴60余年のベテラン俳優で、舞台の代表作は山田巴作「荷車の歌」のセキ、三好十郎作「おき」のりき、有吉佐和子作「三婆」の小姑タキ、八木柗一郎作「あかきちびるあせぬまに」のダズなど。
NHK「こら／なんばしよと」、映画「男はつらいよ サラダ記念日」「少年時代」など映像メディアにも多数出演。
1975年に「三人の花嫁」で芸術祭優秀賞(演出部門)、1982年に業績褒章、1991年に勲四等宝冠章を受賞。
1991〜3年、佐々木愛と共演したNHKFM「夏の終わりに」に「コールマンさん」「やわらかい朝」で放送文化賞。
1994年「あの人は帰ってこなかった」で岩手県農民文化賞。



ROSE THEATRE

1995年8月・9月・10月の催し物のご案内

EVENT INFORMATION

財団自主事業をはじめ、一般貸出事業を含めた8月～10月のイベントスケジュールです。これをご参考に、あなただけのスペシャルプログラムを作ってください。

日	曜日	ホール	イベント
1	火	小	学年主任・研修主任・教務主任・特別委員会合同研修会
4	金	大	富士市青少年会議
		小	水の週間行事
5	土	中	ジュニアミュージカル公演
		小	「恋する作曲家たち」シリーズ 第2夜ベートーヴェン
6	日	大	長清流東海地方大会
		中	第20回記念夏期演奏会 サマーコンサートIN富士
		小	ピアノ・エレクトーン発表会(松浦啓恵)
8	火	小	子どもの食と健康を考える講演会
10	木	中	平成7年度富士市建設業者研修会
11	金	大	富士市教職員表彰・講演会
12	土	小	ピアノ発表会(渡辺康代)
		大	Amwayラリー
		小	おさらい会(古郡昌枝)
15	火	大	富士市戦没者追悼式及び記念講演会
23	水	中	★小林研一郎&弟子によるコンサート
		中	高校入試説明会
24	木	小	ピアノ・エレクトーン発表会(加藤喜美子)
26	土	小	八十の会サロンコンサート
27	日	中	日本舞踊公演
29	火	中	劇団文化座公演「あの人は帰ってこなかった」

展示室のご案内 8●AUGUST

展示期間	展示室	催 事
8/4～6	一般・特別	富士市展(絵画・工芸・彫塑)
8/9～31	一般・特別	戦後50周年報道写真展

9●SEPTEMBER

9/3～7	一般	静岡県油彩美術家協会東部展
9/9-10	一般・特別	富士市小中学校科学作品展
9/13～24	一般・特別	のびゆく郷土の作家展
9/26～30	特別	顧哲剛水墨画師弟展
9/26～30	一般	静岡創玄書道会展

10●OCTOBER

10/4～8	一般・特別	富士市総合文化祭
10/10～15	一般・特別	第25回社会福祉展
10/18～22	一般・特別	富士市総合文化祭
10/28・29	一般	花展

ロゼシアター自主事業 ★印は、ロゼ・チケットセンター窓口でもチケットを取り扱っています。*一般貸出事業については、平成7年7月上旬までの受付分です。*各ホールでの催し物は日時が変更になる場合があります。*主催者の都合により一部記載されない催し物もごさいます。ご了承ください。

編集後記

季節ごとに発行する「ロゼ」、今夏で十二号になった。編集はいつも苦惱の連続。さながら締切間近の展覧会出品物の制作に没頭するがごとし。巻頭記事のエアファ・インバル氏は世界のマエストロ(名指揮者)であるだけに、最も神経を使った。氏の一言一句は短いが、含蓄のある語句が使われている。どうか行間に潜む言葉を讀みとってほしい。ドイツ在住の内藤さんへお願いした現地情報もタイムリーな内容でまさに注文通り、誌面へペタリとはまり嬉しかった。陰で協力を頂いた他会館のスタッフのご厚意にも感謝したい。一方、劇団文化座の鈴木光枝さん。真情あふれるお話しには心を打たれた。八月の「あの人は帰ってこなかった」では、迫真の朗読で私たちを感動させてくれるだろう。(1)

チケットのお申し込み・お問い合わせは

ロゼ・チケットセンター ☎0545-60-2500 受付時間9:00～19:00

プレイガイド	ラ・ホール富士	ユニサービスカウンター
■すみや 富士本町店 ☎(0545)63-2233 富士中央店 ☎(0545)60-4567 ■富士市民センター ☎(0545)61-6262	■チケットセンター津渚 ☎(0559)61-2405 ■カフェ書店 鷹岡店 ☎(0545)71-9592 富士宮・宮原店 ☎(0544)24-7160	■吉原店 ☎(0545)51-9027代 ■富士宮大宮店 ☎(0544)24-0255代 ■カネパ楽器富士支店 ☎(0545)52-1586 ■最勝寺郵便局 ☎(0545)51-5227

日	曜日	ホール	イベント
2	土	中	N.Y.ダンシングギッズおさらい会
		小	ピアノ発表会(仲澤裕恵)
3	日	大	琴伝流大正琴第8回静岡大会
		小	音楽発表会(望月美代子)
5	火	小	平和建設株式会社安全大会
6	水	大	岳南法人会青年部会10周年記念式典
7	木	中	富士市民大学
		小	産業都市の拠点づくり講演会
8	金	小	第1回ファンタジアコンサート(かやはら音楽事務所)
9	土	中	第13回全国要約筆記問題研究会
		小	中部肺病学会
		中	砂防講演会「富士山にまなぶ」
10	日	中	ワイズメンズクラブ富士山支部会
		小	第13回全国要約筆記問題研究会
14	木	中	富士市民大学
		小	富士中、富士第一、富士中央小三校合同講演会
15	金	中	★劇団わらび座舞劇「津軽」
		中	和太鼓発表コンサート
		小	ピアノ・エレクトーン発表会(秋山順子)
16	土	中	世界遺産国際シンポジウム
		小	池宮正信ラグタイムピアノコンサート
17	日	大	美川憲一歌謡ショー
		小	'95静岡県カラオケ大賞
23	土	中	合気道演武会
28	木	中	富士市民大学
29	金	小	ウインドマシーンジャズオーケストラ
30	土	小	吟剣詩舞同好会発表会

イベント見どころガイド

プラス界の最高峰が贈るスペシャルエンターテイメント

EMPIRE BRASS

EMPIRE BRASS

1973年結成の金管五重奏グループ。レパートリーは、ルネサンス、バロックからミュージカルナンバーまで、この世の名曲は全てレパートリーにしてしまう柔軟な音楽性を誇るグループです。

●1995年10月1日(日)大ホール●開場/18:00●開演/18:30
●入場料(全席指定)/一般3,000円・学生1,500円

日	曜日	ホール	イベント
1	日	大	エムバイヤ・プラスコンサート
		中	日本作曲協会理事作曲家弦哲也歌謡大会
		小	民謡秋月会創立20周年大会
4	水	大	★水前寺清子「女てなもんや三度笠」
		小	富士信用金庫抽選会
5	木	大	さだまさしコンサート
		中	富士市民大学
		小	「環境と森林」講演会
6	金	小	福田進一ギターリサイタル
7	土	大	聖書講演会
8	日	大	聖書講演会
		小	ピアノ発表会(仁藤歩)
9	月	小	ピアノジョイントリサイタル
12	木	中	富士市民大学
14	土	大	富士市総合文化祭
15	日	中	(謡曲・詩吟・演劇・小型映画・邦楽・音楽)
		中	オートボックス冬期決起大会
17	火	小	安全管理者等研修講演会
18	水	中	富士市勤労者芸能祭
		大	静岡県健康づくり食生活推進員のつどい
19	木	中	富士市民大学
		小	「恋する作曲家たち」シリーズ 第3夜チャイコフスキー
20	金	中	下水道女性フォーラムにかかわる講演
21	土	小	ジョイントリサイタル
22	日	大	明るい社会づくり運動静岡県推進大会
		中	15周年高千穂会
		小	ピアノ発表会(横山恵子)
23	月	大	愛の輪のつどい
24	火	中	★久未夏子リサイタルII
25	水	大	平成7年度芸術鑑賞会(吉原高、富士東高)
26	木	中	富士市民大学
		小	第22回ロゼ寄席
27	金	中	映画「ガイアシンフォニー」上映会
		大	第43回静岡県PTA大会富士大会
28	土	中	博品館劇場「ブラックコメディ」
		小	ピアノ発表会(稲谷益代)
		大	★杉良太郎歌謡ショー
29	日	中	竹の会 ピアノ発表会
		小	静岡県池坊教授者研究会
30	月	大	吉原北中学校合唱コンクール
		中	松竹歌舞伎

来年の春、ロゼで演奏会を開きたい。でも不安も大きいんです。



『アンサンブル・ルフト』は、決してまだ一年未満の0歳児です。結成のきっかけはロゼ・イン・ニングコンサートの第一夜「ザルツブルグ木管八重奏団」の公演(昨年六月)でした。ロゼシアターで年一回、一流のクラシック音楽を低料金で大勢の方に聴いてもらおうと企画されたこのシリーズが、新しい演奏団の誕生に役立ったわけでした。

代表の大橋さんはその時の様子を「演奏の味がすごく濃かった。特にモーツァルト作曲のオペラ(魔笛)を編曲した名旋律集には脱帽。オペラでしか聴けないものを、小編成のアンサンブルに仕上げた。けれど、と思いましたがね」と。メンバー9名はそれぞれ富士フィルハーモニー管弦楽団と清水シテイ・シンフォニックに所属。普段から相互交流があったことも、団結に弾みをつけたようです。年齢は二五歳〜三五歳。既婚者・独身者入り交じって、紅一点



ラバスも加えました。でも、金管楽器のホルンがなぜあるの……? ごもつともな質問ですね。オーケストラでは吹える楽器ですが、木管八重奏では低音域を支えて小さい音を綺麗に奏でる役割。金管で唯一木管に馴染む楽器がホルンなんです」とお答えでした。木管八重奏は本来官廷音楽の一

は女子学生!? じゃないかつて……。全員が高校のプラスバンドや学生オーケストラの出身。ちなみに音大出は一人もいません。社会人になっても楽器を放せず足を洗えず木管の虫。でも技量や体力に問題あり、といった謙虚です。構成はオーボエ(2)・クラリネット(2)・ファゴット(2)・ホルン(2)。低音を補充するためコント



種です。派手な金管に比べ、柔らかに演奏するスタイル。大橋さんは「隅っこで邪魔にならないように奏でるBGM的性質の音楽。そこが木管の魅力でもあるんですが」。また弦楽器がない分、ずっと吹きっぱなし。オーケストラでは経験できない難しさが楽しさでもあるといいます。交響楽団との最大の違いは指揮者がいないこと、お互い目と耳で確認し合いながら演奏を進めなければなりません。結成当時はアンサンブルがバラバラ、現在は意思の疎通ができるようになって……。これは大きな進歩です。さて今後の目標は? 「来年春、ザルツブルグの向こうを張ってロゼシアター小ホールでコンサートをやるぞ!」でもアマチュアの弱みで毎日練習できない。家で吹いたら騒音で通報されそうです。レパートリーも少ないから時間持たないかも……。少しトーンが下がり気味でした。

アンサンブル・ルフト(木管八重奏団)

ルフトとは独語でそよ風という意味。息を使って音を出すという思いも込められています。結成は平成六年秋。「ザルツブルグ木管八重奏団」の演奏に感動して意気投合した九人構成のグループです。隔週火曜日午後七時三十分〜九時四十五分まで、ロゼシアターの練習室で音色を磨く「アンサンブル・ルフト」。先日、演奏の合間にお伺いして、木管八重奏の特徴や魅力、今後の目標などをお聞きしました。

富士市文化情報誌 ロゼ

1995年7月発行(第12号)
発行
財団法人文化振興財団
〒416 富士市蓼原1307番地の8 ☎(0545)60-2510代
企画・編集・制作
財団法人文化振興財団事業課広報係
凸版印刷(株)